

令和5年度 市長と中学生のふれあいトーク【柏原中学校】 令和5年12月20日（水）開催

### 発表グループ①

#### □「わかりやすい丹波市のホームページについて」

丹波市のホームページは、記事などが集中し、他市と比べてもごちゃごちゃしていて、見づらく使いにくいです。また、外国語翻訳についても、手順が多くて大変だと思いました。

また、私たちが福知山公立大学の学生を対象に行った丹波市のホームページについてのアンケートでは、63%の学生から「見にくい」という意見が出ています。このほかにも「文字が小さくて多い。記事も小さく一ヵ所にまとめ過ぎている」という意見が出いました。

分かりやすく、見やすいホームページにするためには、「文字の間隔を空ける」「ピクトグラムを使って一目でわかるようにする」「翻訳機能の手順を少なくする」ことだと思います。

### ■市長コメント

市のホームページを見て、情報が多くて見にくいという意見もあれば、何でも情報が掲載されているので、調べものをするのに便利だという意見もあります。現在、いろんな人にとって見やすく、便利になるようにリニューアル作業を進めています。リニューアル後にもぜひ皆さんには若者の視点で見て、ご意見をいただきたいです。

#### □生徒①

ホームページは若者も見る機会があるので、若者向けのイラストを使用するのも効果的だと思います。若者に人気のイラストレーターの「わみず」さんは柏原中学校出身です。「わみず」さんにホームページのイラストなどで協力を依頼することで、ファンをはじめとする多くの人に見て貰える魅力的なホームページになると思います。

### ■市長コメント

ホームページのリニューアルにあたり、イラストレーターを起用できるかなどを確認してみます。

#### □「姉妹都市の特産品と丹波市の特産品の輸出入支援について」

姉妹都市連携を活発にするために、両市の特産品の輸出入支援を提案します。姉妹都市連携を結ぶケント・オーバン市にはワイン、サケの燻製といった特産品があり、丹波市には栗、黒豆、小豆、酒などの特産品があります。市内の酒造メーカーに話を聞いたところ、「現在、ケント・オーバン市との取引はないですが、構想はあります。両市が支援してくれるとうれしい」と言っていました。

### ■市長コメント

市内の酒造メーカーさんにおいては、大阪関西万博の特別プログラムに選ばれています。姉妹都市との交流が活発になるためにも、行政だけでなく民間の事業者も一緒になって取り組んでいく必

要があります。

## 発表グループ②

### □「交通網の発達に向けた、電車やバスの増便について」

丹波市は少子高齢化や過疎化が進み、電車やバスの本数が少ないです。交通網が発達して便利になることで、若者が丹波市に残り、移住者も増えるほか、地域産業の発展にも繋がると思います。愛媛県産養殖マダイや高知県産ナスの取扱量について調べたところ、交通網が発達したことをきっかけにシェアを伸ばしたというデータがありました。また、交通網が発達している名古屋、神戸、大阪、東京などは人口が多いです。以上のことから、ぜひ、電車やバスの本数を増やすなど、交通網を発達させて欲しいです。

### ■市長コメント

電車について、JR福知山線は篠山口駅までは複線になっています。丹波市内を走るJR福知山線の複線化に向けては、近隣の市とも協力しながら要望を続けていますが、「乗客数が減少しているため、実現は難しい」という返事を受けており、乗客数を増やすための努力を考なけばなりません。路線バスは、一時年間4万人まで落ち込んでいた乗客数が、現在は12万人まで回復しました。これらの公共交通機関に皆さんのが乗車することは、路線や便を増やすことにつながります。より便利になるように、皆さんもぜひ利用してください。

### □「国道175号線東播丹波連絡道路の早期開通実現について」

国道175号線東播丹波連絡道路について、地域の発展と災害対応のために開通を早めて欲しいと思います。国道175号線東播丹波連絡道路早期実現促進実行委員会の方は「地域の方々の熱い思いが一番の推進力になる」と述べていたことから、地域の皆さん意見を提出することが開通を早めるためにも大切だと考えました。そこで、ルート案について地域の意見を聞いたものを市や実行委員会へ提出し、とりまとめたものを県に提出して、国道175号線東播丹波連絡道路の早期開通実現につなげて欲しいです。

### ■市長コメント

国道175号線は「命の道」だと思っています。丹波医療センターができたことで状況は少し変わりましたが、かつては救急車がこの道を通って丹波市から西脇市や播磨の病院に行っていました。また、「助けに行く道、来てもらう道」だとも思っています。災害時、高速道路は雨量が多くなると通行止めになりますが、国道175号線は雨量が多くても走ることができます。道路の開通については県ではなく、国土交通省に要望を続けていますが、丹波市だけでなく、全国各地で道路に関する要望があり、なかなか実現しないのが実情で、丹波市だけ特別というわけにはいかないことを理解していただきたいと思います。乗り越えなければならない課題も多いですが、皆さん熱い思いとともに、引き続き要望に行きますので、一緒に頑張りましょう。

### 発表グループ③

#### □ 「大企業の誘致について」

毎年、若者が進学や就職のために市外へ流出しています。市内に大企業があれば、その企業への就職をめざして若者がやって来ると思います。市内で余っている土地を有効活用し、大企業を誘致して欲しいです。

#### ■市長コメント

先日、春日地域にある土地を工場用地として売りに出しましたが、残念なことに手を上げた企業はゼロでした。応募がなかった理由は「丹波市には土地があっても働く人がいないから」ということでした。

しかし、令和4年に丹波市に移住してきた人と出て行った人を差し引きすると、全体ではプラス2となりました。これは丹波市になってから初めてとなる嬉しい出来事です。今後も進学などで一度都会に出た皆さんがまた帰ってきたくなるようなまちづくりと働く場所の整備についてうまくバランスを取りながら丹波市を発展させていきたいです。

#### □ 「丹波市 PR 動画の制作について」

私たちの班では丹波市の「衣・食・住」に注目し、PR 動画を作ることを考えました。まず「衣」として、丹波布を取り上げます。丹波布は生糸が織り込まれた通常の木綿糸と風合いが異なるのが特徴で、着物や手ぬぐいに使われています。市内で丹波布を取り扱う店に協力を依頼して、PR 動画を出すことで良い宣伝になると思います。

次に「食」として、丹波三宝である丹波栗、丹波黒大豆、丹波大納言小豆を PR 動画で宣伝します。丹波三宝は特にテレビなどで紹介されることは多いですが、より人気が出るような PR 動画を作ります。

最後に「住」として、丹波市での暮らしについて丹波市在住の方や農家さんなどにインタビューした PR 動画を作ります。これらの PR 動画には、丹波市出身で声優として活躍する長久友紀さんに、アニメーション化した田舎で女などのコラボを依頼します。完成した PR 動画は市役所の外壁や駅のホームにモニターを設置して公開することで、多くの方に見て貰えると思います。

#### ■市長コメント

動画の企画提案をいただきありがとうございます。丹波市では PR 動画などを作って YouTube にアップロードしています。そこに「衣・食・住」それぞれに特化した PR 動画を作ってアップロードすることについて検討したいです。また、丹波市出身の声優さんとコラボする提案もいただきましたが、皆さんには新木宏典さんという丹波市出身の俳優を知っていますか。丹波市を紹介する本も出していて、市の PR にも力を貸してくれています。そういう丹波市出身で活躍する有名人の方とも丹波市の PR について今後何かできないか検討しています。

## 発表を振り返って

### ■市長コメント

魅力的な丹波市になるためにたくさんの提案をいただきましたが、皆さんには進学などで市外に出た後は、丹波市に帰ってきてくれますか。

### □生徒①コメント

私は一度三田市に行って色々な経験を積み、丹波市に帰って活かしたいと思います。

### □生徒②コメント

私は人が多い場所が苦手で、今の丹波市が好きです。行きたい学校が市外にあるので、一度丹波市を出ますが、十分に貯金ができたら帰ってきたいと思っています。

### □生徒③コメント

私も今の丹波市が好きです。進学で市外の大学に行く予定ですが、就職は親と相談しながら丹波市でしたいと思っています。

### □生徒④コメント

私は担任の先生から公務員になることをすすめられています。経験を積むために市外の大学に進学しますが、将来的には丹波市役所や柏原中学校で働くことができたら良いなと思っています。

### ■市長コメント

丹波市役所で働きたいと言ってくれたのは嬉しいです。丹波市の魅力を発信することやまちを良くしていく仕事なのでぜひ頑張って欲しいと思います。丹波市は都会と違って自然豊かで「ただいま帰りました」と言うと近所の人が「おかえり」と声をかけてくれるようなやさしいまちです。

私の目標は「わが子に帰って来いよと言えるようなまちづくり」をすることです。高齢化率の話もありましたが、皆さんのが丹波市に帰ってきてくれないと、高齢化率はさらに上がっていきます。私は東京の大学に進学しましたが、丹波市に帰ってきて結婚し、3人の子どもに恵まれました。これは1人の丹波市民が4人の丹波市民を増やしたということになります。同様に皆さんも丹波市に帰ってきて、結婚、子育てをしてくれるようになると、人口はどんどん増えていきます。人口が増えるに伴って、働き手が増え、企業の増加や交通網の発達にもつながると思います。こうした良いサイクルを作ることができるように頑張っていきますので、皆さんにもぜひ帰ってきて欲しいと思います。

## 発表項目以外のフリートーク

□生徒①コメント

20年後の丹波市とケント・オーバン市の姉妹都市連携について、どのようなものになって欲しいと考えていますか。

■市長コメント

約50年前、私が学生の頃に出会った交換留学生とは今でもSNSを通して交流があります。人と人が交流することで50年経過しても連絡が取れる関係でいられることが大切だと思います。姉妹都市連携は、とても素晴らしいことではありますが、こうした連携は若い人たちが引き継いでくれないと続いていきません。ぜひ、みなさんにもこの連携を引き継ぎ、素晴らしい経験をして欲しいと思います。

□生徒②コメント

市長が思われる、今の丹波市に一番必要な政策は何でしょうか。

■市長コメント

これまで丹波市では、国で検討されている支援策とは別に、所得制限を設けない高校生までの医療費の無償化や最大100万円の出産時における経済的支援などを実現してきました。引き続き、丹波市で子育てする若者を支援する政策をしたいと考えています。

□生徒③コメント

丹波市の紹介やPRで、「食」に関しては丹波三宝などが度々テレビなどで紹介されていますが、「衣」と「住」については十分ではないと思います。市長は「衣」と「住」に重点を置いた政策などは何か考えていますか。

■市長コメント

「住」について、丹波市では移住や空き家対策などを積極的に進めてきました。結果として、令和4年度には194人が丹波市に移住してきています。「衣」についてはまだ着手できていないので、今後の課題として検討していきたいと思います。

□生徒④コメント

私もまだ「衣」に関する良案がないので、将来思いついたときに提言させていただきたいと思います。

□生徒⑤コメント

丹波霧は、丹波の黒豆など農産物を育てるために大切なものだと理解しています。しかし、霧の影響で通学路にあるカーブミラーが見えなくなるなど、事故につながるおそれがあり、大変危険だ

と感じています。霧の濃い日は自動車のライトを点灯するだけで互いの存在が認識しやすくなります。そこで、市の放送などで「霧が濃い日は車のライトをつけて運転してください」という呼びかけをして欲しいです。

#### ■市長コメント

丹波霧は黒井城跡の上から見ると、雲海となってとてもきれいですが、通学などで皆さんのが困っているということがよくわかりました。カーブミラーについては、霧の影響を受けにくいような工夫ができないか考えたいと思います。

#### □生徒⑥コメント

私は外国人との交流を増やす政策提案について考えていましたが、交流には英語などの語学力が必要です。そこで、オンライン会議などを通してケント・オーバン市との交流を増やすことが大切だと思いました。そのためにはインターネット環境が必要になってくると思います。しかし、市内のネット環境はまだ悪いと感じることがあります。市長からネット環境を改善することを頼んでいただけないでしょうか。

#### ■市長コメント

ケント・オーバン市とは新型コロナウイルスの影響で現地に行くことができず、オンラインでの交流となっています。今はインターネットを駆使することで、一堂に会さなくても会議や交流ができます。丹波市役所自体もDX化と言ってデジタル技術を活用した取組を推進しています。こうした取組にはネット環境の整備が必要になるので、今後さらに改善されるよう取り組んでいきたいと思います。

#### □生徒⑦コメント

市長になろうと思われたきっかけは何ですか。

#### ■市長コメント

丹波市に恩返しをしたいと思ったことが1番のきっかけです。かつて丹波市は医師不足が深刻な時期がありました。当時、市内のお母さん方が「お医者さんを増やそう」と活動しているのを目のあたりにし、私もなにかできないかと考えていました。そこでまずは市議会議員になり、そして市長になりました。

#### □生徒⑧コメント

私たちはトライやるウィークについて調べていました。当初、トライやるウィークは楽しいことばかりだと思っていた。しかし、先生方にインタビューをしてみると、「新規の事業所を探すのが大変」「事業所に断られることも少なくない」という現状を聞き、大変さを初めて知ることに

なりました。この経験から、実際に問題に直面している人に出会い、話を伺ってから政策を考えないとの外れになってしまふと感じました。丹波市役所でも、困っている人に話を聞きに行き、市民の方からの話を聞く機会を作り、困りごとを共有できるような市になれば、より良い市になると思いました。

#### ■市長コメント

「いつでも来てください」との思いから私は市長室のドアをいつも開けています。先日も83歳のおばあちゃんが市長室を訪れ、市政などについての話を1時間ほどしました。また、今日、柏原中学校に訪れたように、明日は山南中学校で学生の皆さんとの話を聞きに行きます。過去には市民プラザで市民の声を聞く「広聴会」を実施しました。このほかにも、市役所で働く職員の声を聞くために職員と一緒に昼食を食べながら1時間程度話をする「ランチミーティング」を実施しています。これからも皆さんの意見をたくさん聞きたいと思っています。市長室に来てぜひ私に意見を聞かせてください。

#### □生徒⑨コメント

ランチミーティングなど、気軽に話すことができてすごく良いなと思いました。

#### 終わりに

#### ■市長挨拶

最後になりましたが、本日は皆さんから色々な提案をいただき、ありがとうございました。進学などで市外に出ることはあると思いますが、皆さんのが帰ってきてくれることで、丹波市はずっと続く良いまちになると思っています。これからも皆さんと一緒に暮していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。みんな、丹波市に帰ってこいよ！